



ふるさと絆会  
石田 哲 議員

代表質問

災害の歴史事実を軽視し、自然の摂理を無視する事案は撤回すべき。  
(新焼却施設建設に関する市の提案に疑問)

問

浸水想定範囲で試算した数値をもとに安全であると断言したが、保証できるものではないと考えるが。

答

浸水想定は200年確率を用いて試算し、建物の安全策に万全の対策を講じます。

答 市長

安曇川流域の河川政策は、県に流域全体の流量計算、河川断面の解析、霞堤・遊水地の治水上の機能の調査分析を要望しています。北川第一ダム建設中止による下流域の早期河道改修や、安曇川上流部の河床の上昇により流下能力が低下している状況を踏まえ、浚渫による堆積土砂の除去、霞堤の高上げによる氾濫対策を要望し、検討していただいています。

問

建設用地取得案否決議員は、市長発言の通り代案を提出し

問

先人の知恵や自然との共生は現代でも大いに役に立っている。霞堤の遊水機能は歴史事実として認識すべき事である。自然の摂理を無視する事など許される行為ではないのではないか。

答 市長

県の紹介による河川分野のコンサルタントの調査結果では、建設予定地で盛土による影響はないと確認しました。

問

気候変動は予測できない災害を起こしている。浸水想定範囲で試算した数値をもとに下流域は安全であると断言し

た。保証できるものではないと考えるが。

答 市長

建設に際しては予見でき得る事態を想定しています。浸水想定は200年確率を用いて試算し、万が一の場合でもごみ等が流出しないよう、建物の安全策に万全の対策を講じます。

問

想定外の降雨量で、現実に発生している北川と安曇川の合流部の対策を進めるべきと考えるが。管理者である県と共に改善策を進めるべきでは。

答 市長

た。真摯に検討すべきではないか。  
環境センターでの具体的な整備内容が白紙であり、多くの課題があるため困難と考えます。また、花折断層が環境センターのほぼ直下に位置し、1662年の大地震が文献にもあることから、現センターへの再考は防災上の観点からも避けなければならぬと考えます。



その他の質問

- 1、出合いの創出と雇用
- 2、清水山城の実態は？